

地区目標

ロータリーにもっと誇りを  
そして学び DEIの心を持って行動実践しよう

クラブテーマ

ロータリーを楽しみ、仲間と絆を！

◆点鐘：遠藤 靖彦 会長

◆ロータリーソング：国歌・蔵王を仰ぐ

◆司会：武田 博文 S.A.A.

◆会場：山形グランドホテル



第**3032**回例会

令和6年**11**月**18**日(月)

## 会長あいさつ

遠藤 靖彦 会長



11月10日に地区大会が長井で開催されました。この西ロータリーからも25名の方々にご出席をいただきました。ほんとお忙しい中ご出席いただいた皆さま、大変ありがとうございました。その場で、次年度ガバナーとして今日お越しいただいております小松栄一様、そして次々年度のガバナーとして、山形ロータリークラブの伊藤修二様、お二方の発表がなされました。その中で、西ロータリーとしてもいろいろな表彰をいただいております。

今回11月の褒章が発表されまして、当西ロータリーからは東海林健登さんが黄綬褒章を受章されました。大変おめでとうございます。

11月はロータリー財団月間ということで、それに伴いまして今日卓話をいただくというかたちになります。今日は12月のテーマについてお話をさせていただきたいと思っております。12月のテーマが「疾病予防と治療月間」というのがロータリーの月間のテーマになっております。ロータリーの動きとしては、「ポリオ撲滅」というものをメインに掲げております。一時期これについてはだいぶ終息に向かったということではありますが、いま現在、世界の紛争の中でまたポリオ患者が増えてきているという状況があるようであります。ロータリーとして活動しているポリオのほうにも、皆さまにもぜひご協力をお願いしたいというふうに思っています。

ただそれよりも気になりますのが、どうやらこの西ロータリーの中でもちょっと体を壊されているという方のお話をちょくちょく聞くようになりました。日頃の節制がうまくいっていない方、私を筆頭にということでございますが、そういう方々の体調不良というものもあるかもしれませんけれども、やはり日頃から予防のために何かの活動をする、また検査をするというものも大変重要かと思っております。この中で人間ドックに行かれたことのない方、いらっしやいますでしょうか？皆さんドック行ってらっしやいますか？ある程度のタイミングではドックのほうにしっかり通っていただいて、大事なお体でありますので、予防そしてその対策というものをさせていただいていただければありがたいなと思っております。今日は皆様のご健康を祈念して挨拶とさせていただきます。

## IMのPR



鈴木 重幸 さん

《山形ロータリークラブ副会長》

今年度山形ロータリークラブが芳賀ガバナーの年度方針に従いまして日々活動しておりますが、その中の山形ロータリークラブの1つの活動の中に、インターシティミーティングの開催ということが入っております。後ほど大内委員長からご説明させていただきます。

11月10日の2800地区の地区大会で、2024年ー2025年のガバナーエレクトに小松栄一様をご承認いただきまして、同時にガバナーノミニとして山形ロータリークラブの伊藤修二様がご承認いただいております。2026年ー2027年度のガバナーに向けまして、ぜひ山形西ロータリークラブの皆さまからもご支援、ご協力賜ればと思いますので、よろしく申し上げます。



大内 光夫 さん

《IM 実行委員長》

IMの目的は情報の共有とそれから懇親でございますので、懇親をメインを置きながら、意味のある、そして参加されて楽しいIMにするように努めてまいります。

2月15日土曜日開催で、場所は、山形グランドホテルです。2時から登録開始、2時半から開会、そして4時半には懇親会を始めたいと思っております。そして6時には皆さまをお見送りするというようなかたちで、できるだけコンパクトに進めていくつもりではあります。1月14日までの登録締切にさせていただいておりますので、ぜひご協力のほどよろしくお願いしたいと思います。

中身について、テーマはIR会長、2800地区のガバナーからの依頼もありました、ポリオについてやりたいと思っております。ポリオ根絶と言いながらなかなか進まない部分があり、皆さまにご認識と決意を新たにさせていただいて、ポリオプラス・ソサエティのほうに皆さまをお誘いしたいというふうに思っておりますので、よろしく申し上げます。

## 幹事報告

武田 良和 幹事

- 武田元裕会員がポール・ハリス・フェロー6回目の受賞いたしました。おめでとうございます。
- 本日新入会員2名の方が出席をされております。山本修司さんと井上智博さんです。よろしく願います。
- 本日の例会終了後理事会を開催いたしますので、ご関係の方はお残りください。
- 今月のロータリーレートは153円です。

## 委員会報告

### 親睦・家族委員会

荒井 敏夫 さん

12月26日月曜日、場所はパレスグラウンダーにおきまして、2024年クリスマス家族会を開催いたします。登録受付が夕方5時半から、例会が夕方6時から、そしてクリスマス会が6時15分からというスケジュールになっております。三浦委員長のもと委員会一同いま準備に努めております。皆さまご家族をお誘いいただいたうえ、たくさんの参加をお待ち申し上げております。

続きまして、お誕生日のご紹介をさせていただきます。会員8名、奥様が7名、11月に誕生日を迎えられます。おめでとうございます。

## 新入会員紹介



井上 智博 さん

《株式会社マルキ》

株式会社マルキ常務取締役を務めております井上智博と申します。この度は歴史と伝統ある山形西ロータリークラブさんへの入会をご承認いただきまして誠にありがとうございます。皆さまからご指導をいただきながら活動を共にしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

山形を楽しく、明るく、元気にしていきたいということで、その思いを持ってこのロータリー活動にも邁進してまいりたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



山本 修司 さん

《山本建築設計事務所》

山本建築設計事務所の所長をしております山本修司と申します。

今来、60の年なのですが、なぜか小学生の子どもが3人おまして、昨日もPTAで真っ黒になっているというような次第でございます。生涯現役、生涯子育てを motto にがんばっていきたく思っております。

歴史と伝統のある山形西ロータリークラブに今回晴れて入会させていただくことができ大変光栄に思っております。今後とも精一杯努めさせていただきますので、何卒よろしくお願いいたします。

## ニコニコ BOX

〈11月18日〉

遠藤靖彦会長／本日、もりだくさん

小松ガバナーエレクト、お忙しい中ようこそお越しいただきしました。山形ロータリークラブより鈴木様、大内様、ありがとうございます。そして新入会員の山本様、井上様、ようこそ。

武田良和さん／小松ガバナーエレクト、また、ゲストの皆さま、そして新入会員の皆さま、心より歓迎申し上げます。小松栄一2800地区ガバナーエレクト、本日はご多用の中ご講話を賜りますことを心より感謝申し上げます。また、山形ロータリークラブがご担当のIMのご盛会をお祈り申し上げます。

山形ロータリークラブ副会長鈴木重幸さん・IM実行委員長大内光夫さん／インターシティミーティングへご参加のお願い  
山形西ロータリークラブの皆さまにはいつも大変お世話になり誠にありがとうございます。来年2月15日にインターシティミーティングを開催しますので、皆さまからのご参加よろしくお願い申し上げます

小松栄一ガバナーエレクト／本日卓話のチャンスをいただいで。

東海林健登さん／令和6年秋の褒章に際し、黄綬褒章受章の栄誉に浴することができ、また、多くのメンバーの方々からご祝意を頂戴し、感謝申し上げます。ニコニコさせていただきます。

武田元裕さん／小松栄一ガバナーエレクト、ようこそ  
本日はよろしくお願い申し上げます。

遠藤正明さん／山本修司さん、井上智博さんの入会を祝い  
井上さん入会おめでとうございます。これからも末永くよろしくお願い申し上げます。

五十嵐信さん／鈴木重幸くんへエールを送る

本日、私の恩人の1人である山形クラブの鈴木副会長にお越しいただきました。鈴木さんの今後のご活躍に心からのエールを送ります。

東海林仁さん／山本修司先輩、井上智博さん、入会おめでとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

武田岳彦さん／ようこそ西ロータリークラブへ

井上智博さん、山本修司さんのご入会を心から歓迎いたします。ぜひ西ロータリークラブライフを楽しんでください。

浦山潔さん／ロータリー財団月間での小松ガバナーエレクトを歓迎して

お忙しい中、小松ガバナーエレクトの卓話を快くお引き受けありがとうございます。よろしくお願いいたします。海和さん、芦野さん、本日の段取り感謝いたします。会員の皆さま、ロータリー財団月間中、よろしくご寄付をお願いします。

市村清勝さん／熱烈歓迎、山本修司くん、井上智博くん  
入会を楽しみにお待ちしております。一緒にロータリーを楽しみましょう。

高橋勝治さん／山形市の80-20表彰式にて最優秀賞をいただきました

昨日、山形市主催の80-20表彰式があり、どういうわけか最優秀賞をいただきました。私が通院している先生とスタッフの方々のおかげで、自分の歯が32本あり、それが原因でいただいたと感謝しています。





### ロータリー財団の話

小松 栄一 さん

《国際ロータリー第2800地区ガバナーエレクト》

ロータリー財団の使命というのは「ロータリアンが、恵まれない人々の健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成するようにすること」というふうに書いてあります。先輩方にはもう当然のことだと思いますけれども、ロータリー財団の創始者はアーチC・クランフというロータリアンであります。彼は「世界でよいことをしよう」という話をして財団の大元を作ったわけですが、そこに至るまでは非常に長い道のりがありました。

彼はRIの会長もしたわけですし、クラブ会長の時にももうこの構想を持っていらっしゃいまして、「社会奉仕の分野において世界でよいことをするための基金を作るのが、極めて適切である」というふうにおっしゃっています。また、クラブ会長の時には「自分のためだけに生きるべきではありません。人によりことをする喜びのために生きるべきなのです」と、こう述べられております。

皆さまご存じでしょうか。財団のお金ってどこに行くのだろうか。私たちが普通にやる寄付、普通寄付というのは年次プログラム基金というところに入ります。これは先ほど表彰もありましたが、ポール・ハリス・フェローとして表彰の対象になります。もう1つ大きいものとして、恒久基金というものがあります。これはベネファクターとして表彰されます。そのほかにもポリオプラス基金、それからロータリー平和センター冠名基金とかいろいろあります。この辺が非常に大きい基金の入り口ということになります。このどこかにお金が入って、それが後ほど私たちが使う、プログラムで使うお金になるということになります。

これはちょっと古くなりますが、まだ統計が出ていない段階で作ったものですので、2020-21年度の統計です。大体年次基金、私たちが普通に出した基金のお金は1億4千万ドルくらい世界中から集まります。恒久基金に対しては3千2百万ドルくらいですね。そしてポリオとかその他にお金が入っていると。それでポリオの場合、いかに皆さんが世界中で力を入れているかというのがこれでもお分かりになれるかと思えます。この辺が大きなお金の流れの大元になります。少し年を進めまして、2022-23年度、この時は1億5千万ドル。大体1億4千万～5千万ドルくらいが毎年の寄付ということになります。恒久基金も似たようなもの、それからポリオプラス基金も似たような形でお金が集まっているということになります。

それで、出口はどうなっているかということになりますが、簡単に言いますと、地区補助金、財団活動補助金という、DDFと呼ばれるものが左側にあります。そして国際財団資金というものがあります。ワールドファンドというものがあります。こちらはロータ

リー財団がコントロールするお金です。左側の地区財団活動資金は地区がコントロールする資金になります。ですから半半に分けられると。昔はこの運営費というのはなかったんですね。完全に私たちの寄付したお金は50%返ってきたのですが、どうも財団のスタッフの金遣いが荒いのかどうかはわかりませんが、4～5年前から運営費というのが取られるようになりました。5%天引きされています。ですから、今のところ私たちに入ってくるのは47.5%が戻ってくるという形になります。

地区が使うお金に関しましては、地区補助金とグローバル補助金というふうな形に分けられます。簡単に言うと、地元で使えるよというお金が地区補助金です。グローバル補助金は世界で使いなさいというプログラムになります。使える中味はほぼ同じです。人道プロジェクト、奨学金、地区研修チーム用のお金ということで、グローバル補助金はそれにプラスポリオプラス、ロータリー平和センター、その他というふうに書いてありますが、これも地区補助金もできます。というのは、地区補助金、今は余るとRIから天引きというか強制的にポリオに出せ、もしくは平和センターに出せということでお金を取られますので、ほぼ地区補助金、グローバル補助金、同じ使い道ということになります。ただ、使う場所が地元で使うか、それとも世界で使うかという違いだけであります。

グローバル補助金に対してはワールドファンドから上乘せがあります。私たちが世界で何かプロジェクトをしようということになって、例えば2万ドル出しました。そうするとRIから、それとワールドファンドを使って上乘せが来ます。それが80%。昔は100%来たのですが、これもやっぱりお金がなくなったのでしょね、80%しか今戻らなくなりました。今の財団のシステムになる前、WCSという、ワールドコミュニティサービスというシステムがあった時代もお金はすぐなくなったんですね。世界中でいいことをやりたいというロータリーがいっぱいいて、10月になるとほぼ財団のお金が枯渇してしまうということが起こりまして、それで今のシステムに直したのですが、それでもやっぱり世界中から引き合いが多くて、上乘せが100%だったのが80%になってしまった。多分、これはもしかしたら将来的にはもっと下がるかもしれませんが、もしくは期間が早く終わってしまって、本当は1年中いつでも、グローバル補助金はいつ申請してもいいことになっているのですが、年度の終わりのほうになったら「もう来年に回してください」というようなことは起こりうるんだろうなというふうに思います。

それから、使途指定寄付というのがありまして、そういうものにもこのグローバル補助金に使うことができるというような形になります。

それで、グローバル補助金を使う場合にはいろんな制約があります。最近のロータリーは単年度主義ではなく長期プランを立てて活動しようということと綱領計画というものが発表されていますが、それに続いて最近言われているのは、3-Year Rolling Goals、3-Year Rolling Targetなどと言っていますが、3年計画でやりましょうというようなことがあります。これも財団が先行してやっています。財団のプログラムは持続可能であることが必要であると。最低でも3

年、もしくはそれ以上というようなことです。それから最近言われているのは、測定可能である。この測定可能であるというのは私もすごく悩ましいのですが、どうやって測るんだと。その効果があった、なかったというのを測るのは、どこをどういうところで測るんだというのがあるのですが、そこら辺も基準が最近はできているようです。

それから相手国、私たちは日本ではなくどこかでプロジェクトをやるんですね。例えばモンゴルでプロジェクトをやったとすると、モンゴルにロータリークラブがないとできません。ですから、簡単に言うと社会主義国、ベトナムは確かロータリークラブがないと思うのですが、だからベトナムとか中国はできないですね、基本的には。とにかく相手国にロータリークラブがなければなりません。あと、重点分野の1つ以上に関連していることが求められます。このようないろんな制約がある中でグローバル補助金というのをやっていかなくはいけません。

それから奨学金の場合には、大学院レベルです。昔は大学レベルでよかったのですが、今は大学院レベルです。しかも世界に8つの平和センターがありますが、その平和センターと同等レベル、同等かもしくはそれ以上のレベルでなければ、グローバル補助金を使った奨学金は出せないという制約があります。2800地区はなかなか奨学生が出せないですが、それはここが非常に大きいです。正直言って、山大の卒業生ではこのロータリーの平和センターのレベルの大学院のラインをクリアできないということで、何人か今まで送っていますが、今回送っている子どもさんは東北大学を卒業して今山大でセラピストをやっている方なんですけれども、やはり卒業は東北大だったということで、私たちはなんとか山形大学からの卒業生で奨学金を取れる人を、子どもさんを探したいなと思っているのですが、そういう意味で皆さまからあそこに山大だけすごく優秀な人がいるというのがいましたら、ぜひ地区のほうに推薦していただいて勉強していただきたいというふうに思います。

あと職業研修、これは今2800地区ではほとんどや

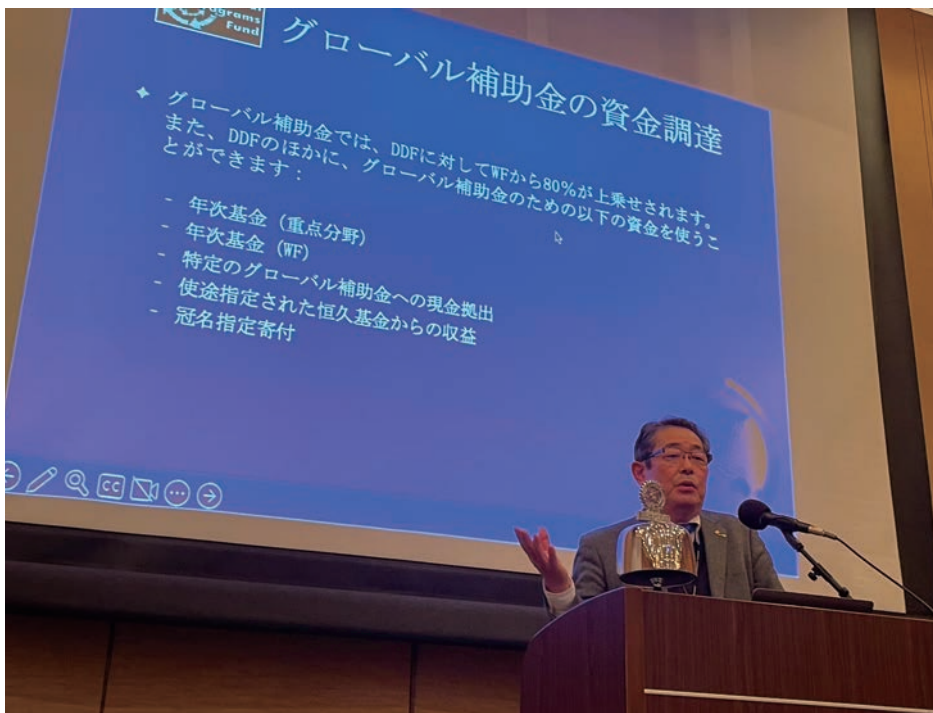
れておりません。前は職業研修プログラムがあって、お互いに行き来するというプログラムをやっていました。例えばアメリカともやりましたし、ブラジルともやりました。今の職業研修はワンウェイ、向こうから招いてこちらで研修させて帰すか、こちらから講師を送って現地で講習をやって戻ってくるというふうな形の職業研修しかできなくなりまして、すごくやりにくくなりました。唯一やろうとしたのが、このシステムになってから、東根工業高校に東根ロータリークラブさんがソーラーシステムを贈ると。ソーラーシステムを贈って、そのソーラーシステムをメンテナンスする人を育てるために、東根工業にその地元の人を呼んで研修させようとしたのですが、いかんせん東根工業そのものが学校再編でなくなってしまって受け入れ先がなくなったということで、それがなくなってしまって、それ以来職業研修はやれていません。それで先ほど言ったとおり、ロータリーが存在する国や地域であるということですね。こういうふうないろいろな制約があります。

それからできないことがいくつかあります。寄付やっちゃダメとか、単純にポリオのためにお金を持っていっちゃダメとか、いろんな制約があります。そういう制約を乗り越えているいろんなことを世界でやってみましょう、いいことをやりましょうというのがグローバル補助金です。

それでグローバル補助金の目的はこのようなことでして、なるべく地域のニーズに合ったものにしてほしいと。WCSの頃にいろんなプロジェクトが動いたのですが、私が聞いたところでは、例えば救急車をフィリピンに贈った。素晴らしい仕事だと思うのですが、5年後に行ってみたら、もう救急車はポンコツになっていて動かない。医療のためにCTを贈りましたと。発展途上国にCTを贈りました。5年後に行ったら、CTはもうメンテナンスをされていないので動きませんでした。というふうなことで、非常に素晴らしい仕事をしながら、それが実際に本当に地元役に立っているのかというふうな反省がありまして、今では地元のニーズを確実に捉えなさいと。それからモニタリングと評価ですね。結局ちゃんと行われているか、私たちがやった寄付が地元でちゃんと役に立っているかどうかを確認しなさいというふうなことが言われております。

ですからグローバル補助金は最低でも3年と先ほど申し上げましたけれども、立ち上げて、プロジェクトを開始して、2年目、3年目、3年目で確認して、見直して、さらにそのあともまた続けられるものであれば続けてください、というふうな形で今グローバル補助金を運用するようになっていきます。

最後に、ポリオはご存じの方が多いと思うのですが、今、もうすぐ撲滅できる1歩手前まで来ています。人類が撲滅できた感





染症というのは何だかご存じでしょうか。天然痘ですね。昔、種痘というのをやっています。ここに跡がある人は種痘というのをやったことがある。天然痘だけが撲滅できた疾病ということになります。

それでポリオは、感染症としては2つ目の撲滅疾患として私たちが今がんばっている。これは日本のロータリアンが最初に始めたんです。東京のロータリークラブ、別のファイルに書いてありますが、東京のロータリアンがフィリピンで小児麻痺の調査をして、小児麻痺というのは非常に発展途上で蔓延していて怖い病気だそうです。今でも大変な病気なんだということ調査されて、それでポリオのワクチンを投与するプロジェクトを始められた。それが国際ロータリーに認められて、それでWHOと一緒にポリオ撲滅をやりたいということになったのがポリオ撲滅運動なんですね。それを、ポリオだけではもったいないんじゃないのということで、結核だなんだかんだ、いろいろプラスしてやりましょうと言いだめたのがポリオプラスというプログラムです。

ですが、今はエンドポリオになっちゃったんですね。エンドポリオ、これはポリオの撲滅が見えたということで、エンドポリオというプロジェクトに今は変わったわけです。

もうほとんど、世界中のほとんどの国でポリオはゼロになっています。ただ、ポリオに関して言うと、1つは天然型のポリオと、それからⅡ型ポリオと言いまして、ワクチンが原因で起きるポリオがあります。今世界中で残っているのはそのⅡ型、ワクチンのせいで起きるポリオが世界中でちょこちょこ出ていますが、これはワクチンを改良していけばなくなるし、もし天然型のポリオがなくなってワクチンの投与が必要なくなれば、これはなくなるものですから、今のところそんなに危ないものではないなというふうに私たちは思っています。

ところがこの天然型のポリオがなかなかなくならない。それで2020年までで18億ドル突っ込んでいますが、そこからさらにもう4年経っていますので、しかもビル&メリンダ・ゲイツ財団とロータリーが組んでポリオ撲滅をやっていますので、その関係でもう22~23億ドルくらいはポリオに入れているというふうに思います。

それで、今ポリオで問題になっているのは、パキスタンとアフガニスタンですが、やはりアフリカとか中東あたり、それから東南アジアではまだ先ほど言ったⅡ型のポリオがいますので、油断はできない。先ほどワクチンをやめればなくなると言いましたが、まだまだ続けなくてははいけない。と言うのは、パキスタン、アフガニスタンから野生型のポリオを持って、旅行者がポリオを運ぶ時代ですので、やはり天然型のポリオがポツポツいろんなところから出るんですね。最近やっとその天然型のポリオも減ってきましたけれども、前はアフリカとか中東あたりで天然型のポリオが発生していましたので、なんとかなくすためにはまだまだポリオのワクチンはやらなくちゃいけないという

ことで、ポリオワクチンを接種する予防接種デーというのをやっていただいているというのがWHOを中心とした世界的な取り組みであります。

それからビル&メリンダ・ゲイツ財団のことを先ほどちょっと言いましたが、ビル・ゲイツさんはロータリアンなんですね。ポリオ撲滅にすごく関心を持たれて、自分で財団を持っていらっしゃるけれども、ロータリーががんばるなら私もお金を出そうということで、今年度は1億5千万ドルですかね。この何年間かそのぐらいの規模の寄付をさせていただいております。世界中でロータリアンが集めるポリオの募金はいくらかご存じですか。5千万ドルです。ビル・ゲイツさんは1人でその3倍のお金を出していると。それだけ、2億ドルを私たちが集めて、WHOを中心としたいいろんな関連機関がエンドポリオということでごんばっているのですが、それでも撲滅できないというのがこの病気の怖いところであります。

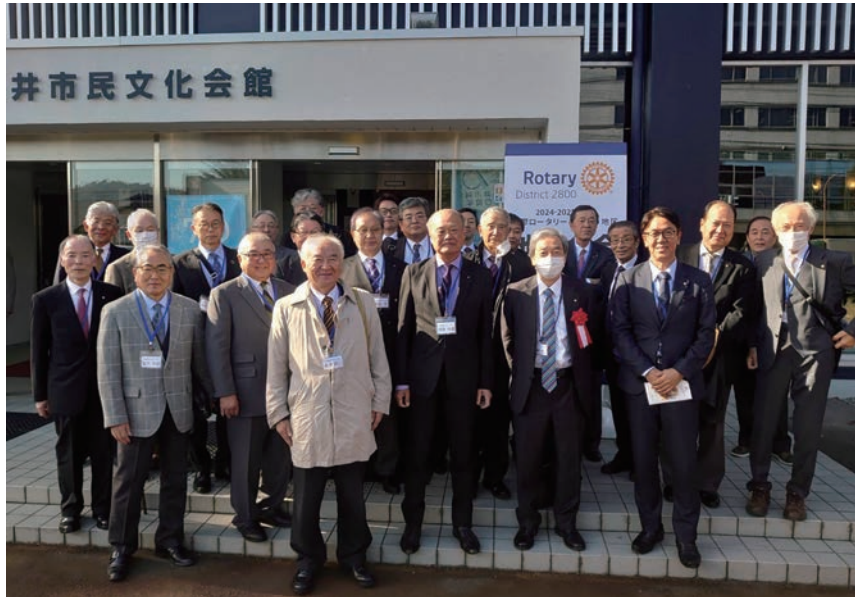
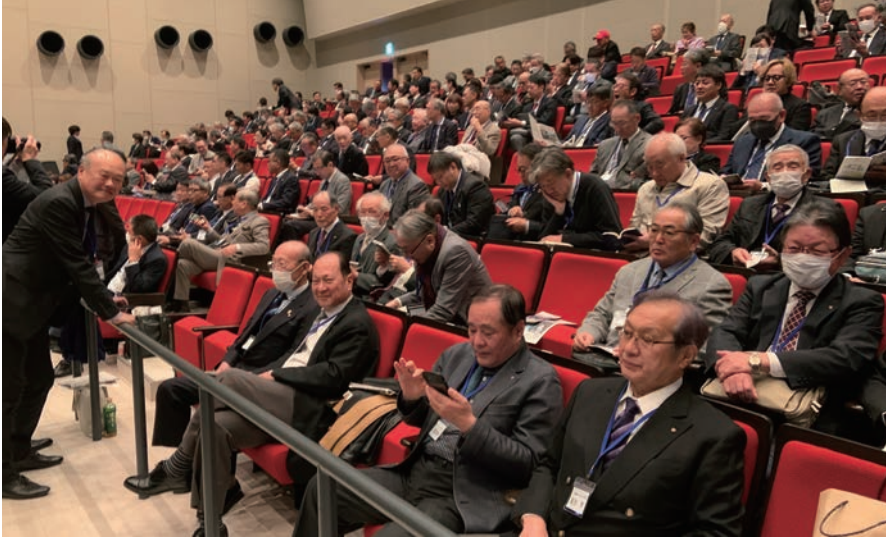
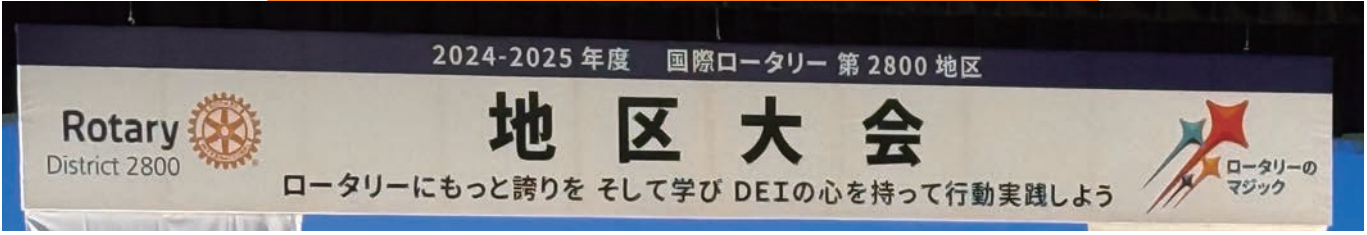
そして今残っているのは、先ほど申し上げたとおり、アフガニスタンとパキスタン。なぜアフガニスタンとパキスタンだけが残ったのでしょうか。本当は1桁まで行ったんです。もうこれでアフガニスタンもパキスタンもポリオをなくせるだろうという1歩手前まで行ったのですが、そこで起きたのがオサマ・ビンラディンの暗殺です。その前に、オサマ・ビンラディンが殺されるもっと前なんですから、オサマ・ビンラディンがアメリカの特務機関から殺されたというニュースが出たあと、パキスタン、アフガニスタンの北部、あそこら辺の人たちは、WHOとかロータリアンが入っているポリオの部隊に対して「こいつらは私たちの同胞を殺した人間だ」ということで、襲撃されました。それで何人かの方が亡くなりました。この資料の最後のほうに書いてありますけれども、そこでさすがに、命を賭してまでというわけにはいかないものですから、やはりアフガニスタン、パキスタンでのワクチンの投与が滞ってしまったということで、ちょっとそこで停滞して、またポリオが息を吹き返してしまった。そこから非常に、1歩進んでは2歩下がり、2歩下がってまた1歩進む、みたいな感じで増えたり減ったりしているのが今のポリオの現状であります。

ということで、エンドポリオ、今国際ロータリー、それからロータリー財団、これの今の最高の目標はポリオをいかにして終わらせるかということではあるのですが、ポリオの募金を皆さまにお願いするというのもそういうところにあります。非常に遠い国で起きていることではありますが、子どもたちの未来を守るという意味では、私たちが総力を挙げて取り組まなくてははいけないプログラムだと思っていますので、ぜひ皆さまからもこのエンドポリオ、ポリオプラスに関して少しでもいいので寄付をいただければなど。1杯のお酒を飲む代わりにエンドポリオに出していただければというふうに思いますので、ご協力をよろしく願います。以上で私の話を終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。

|                |      |       |
|----------------|------|-------|
| 本日出席 (11 / 18) | 会員総数 | 出席会員数 |
|                | 108名 | 62名   |



第3031回 令和6年 11月10日(日)



＝ 会員懇親の夕べ ＝

